

日本保健物理学会の対応（課題と論点の整理）

服部隆利

(財) 電力中央研究所

1. はじめに

一般社団法人日本保健物理学会は、福島第一原子力発電所事故を受け、事故早期の段階から、ボランティアの献身的な協力のもと、一般公衆向けの Q&A サイトを学会ホームページ上に開設し、放射線防護の専門家集団として社会からの疑問に応える活動を続けてきた。また、平成 23 年 6 月 16 日には「原子力防災対策とその基準」、8 月 12 日には「公衆の被ばく」、12 月 17 日には「内部被ばくを中心とした被ばく評価と廃棄物管理等」に焦点を当てた 3 回のシンポジウムを開催し、10 月 18 日には、第 44 回研究発表会において福島原子力事故関連セッションを設け、個別のテーマについて理解や議論を深めてきた。本発表では、上述の震災後約 9 カ月間の一連の学会活動を総括し、放射線防護上の重要な課題と論点を抽出した結果、ならびに今後の展開についてご紹介する。

2. 放射線防護上の課題とその論点

過去 3 回にわたって開催してきた福島第一発電所事故対応シンポジウムおよび第 44 回研究発表会における議論をもとに、放射線防護上の重要な課題を、事故後の経過とともに推移した被ばくの状況に応じて、下記のように 11 件の課題に取りまとめた。また、各課題別に 31 件（4 件重複のため 27 件）の論点を整理した。

1) すべての状況に係る共通課題

(課題 1) 放射線リスクに対する公衆の不安・疑問への対処方法

(課題 2) 空間線量率、表面汚染密度、食品中の放射性物質濃度等の測定方法

2) 緊急時被ばく状況に係る課題

(課題 3) 屋内退避・避難基準

(課題 4) 安定ヨウ素剤投与

(課題 5) 食品・飲料水摂取制限の考え方

(課題 6) 除染のためのスクリーニング基準

(課題 7) 緊急作業従事者の線量限度

(課題 8) 放射性ヨウ素による甲状腺等価線量の事後調査

3) 現存被ばく状況（すでに広域に放射性物質が存在している状況）に係る課題

(課題 9) 校庭、飼料、作付土壌、肥料、水浴場等の利用判断基準

(課題 10) 警戒区域内への一時立入りの方法

(課題 11) 放射性セシウムを含むがれき、汚泥および除染土壌等の廃棄物管理

3.まとめと今後の展開

これまでに当学会が行ってきた福島事故の関連活動で挙げられた放射線防護上の課題を、被ばくの状況に応じて、11 件の課題に整理した。また、各課題別に 31 件（4 件重複のため 27 件）の論点を整理し、討論の基礎資料とした。今後は、これらの課題のうち、当学会として対応すべき課題については、課題解決のための取組み方法の具体化を検討する予定である。また、国や放射線防護の専門家が検討すべき課題については、現行の放射線安全体系をどのように進化させていく必要があるかの視点に重点を置き、多くの放射線防護の専門家を擁する当学会の特徴を生かし、将来的に放射線防護体系が目指すべき方向性を示す提言を、当学会のホームページを通じた意見募集を通じて策定し、社会に向けて発表する予定である。